武庫川河口から西宮なぎさ街道を歩く

第 145 回武庫川エコハイク
2019. 6. 8　エコグループ・武庫川

武庫川　全長 65km、流域面積 500km^2、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち全国 10 位の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の西側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22（2010）年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

潮止堰　塩水の遡上を防ぎ付近の地下水への塩分侵入を防止するために平成 4（1992）年に設置された。生物環境、治水上の問題が指摘され撤去が決まっている。

汽水域　阪神電鉄本線より南の最下流部は汽水域となる。潮の干満によって生ずる海水と淡水が混じる水域。独特の生態系がある。

武庫川終点　篠山市の起点からここまでが県管理上の「武庫川。これから下流は「港湾」。

防潮堤　昭和 25 年のジェーン台風の被害を受けて築堤された防潮堤。幅 5～9m、延長 12.4 ㎞の防潮堤は、O・P(大阪湾最低潮位)6～7m の高さで建設された。（ジェーン台風の高潮は 3.6m）

武庫川唯一の砂浜　阪神高速湾岸線の右岸下流にある。貴重な自然が残る。

鳴尾　約 1800 年前神功皇后が朝鮮半島から帰国して広田神社創建の勅を発した頃といわれている。当時の武庫川の河口は現在の JR 線の北側にあったといわれ、海岸には多くの洲が点在し遠浅の瀬になっていた。人々は山手に住んでいたが漁に行くのが不便でだんだん洲に家を建てるようになり、集落となったという。地名は大阪湾に突き出た長い洲の上に葦が生い茂り緩やかな傾斜を示す「ナル」と武庫川の河口の端がけもの尻尾のように見えたことからナリ尾、ナル尾となったいう説もある。その後、万治 2(1659)年「戸崎切れ」という武庫川の大洪水で枝川ができこのあたりに土地が形成された。その後、枝川も決壊し申川（さるかわ）ができた。枝川、申川は武庫川の改修時に払い下げられて今は甲子園球場や道路、住宅地になっている。

西宮市鳴尾浜臨海公園　鳴尾浜の造成地に設置されたｽﾎﾟｰﾂﾚｸﾘｴｰｼｮﾝｴﾘｱで北地区と南地区があり、北地区には体育施設、市民の森などが、南地区にはリゾ鳴尾浜、海づり広場がある。リゾ鳴尾浜からの大阪湾展望は圧巻。北と南を結ぶ遊歩道の中地区に分れた自然豊かな公園。

市民の森　臨海公園の北地区防潮堤に沿って市民の森がある。市民の森の一角に「白球の森」。昭和 58(1983)年第 65 回夏の全国高等学校野球選手権記念大会で、各都道府県代表校が郷土ゆかりの木を寄贈し植樹した森です。日本地図をイメージして北海道から沖縄まで植えられる。

西宮市枝川浄化センター　鳴尾川対岸に西宮市枝川浄化センターがある。下水と雨水ともに流入し処理されている。**鳴尾川**は、鳴尾地区の排水路。

枝川水路（せせらぎ水路）　今の枝川は枝川浄化センターの水を流して「せせらぎ水路」として親水空間となっている。

西宮市浜甲子園運動公園　枝川を挟み東西に総合運動施設。旧厚生年金スポーツセンター。

兵庫県立甲子園浜海浜公園　今津浜地区・浜地区・ふるさと海岸地区・沖地区の4つのエリアがある。今津浜地区から沖地区へは入江に架かる「甲子園浜橋」を渡る。ヨットハーバーが見える。

西宮市甲子園浜自然環境センター　甲子園浜は阪神間に残された数少ない自然の砂浜、干潟、磯がある貴重な浜である。甲子園浜自然環境センターは、自然豊かな甲子園浜の保全と市民の皆さんの自然観察・環境学習活動の支援を目的とした施設である。

環境省甲子園浜生物保護地区、浜甲子園鳥獣保護区、鳥獣特別保護地区　甲子園浜枝川浄化センターから東地区が国の生物保護区（特別保護地区を含む）等に指定されている。

今津　今津は新しい津（港）の意味で、母村である津門が古い津に対して今の津、新しい津今津となったという。津門は今津の北に位置し古くからの港の入り口に位置していた。

今津砲台跡　今津砲台は明治 43(1910)年海軍省から払い下げられ、大正 5（1915） 年取り壊された。石材の一部が「今津砲台記念石」として今津灯台の東側に残されている。

今津灯台　文化 7(1810)年灘五郷の酒の出荷港としての今津港に今津の酒造家長部長兵衛によって創建された。灯明台とか高灯篭とか呼ばれている。今は外観そのままで現役の灯台として使われている。正式名称は「大関酒造今津灯台」。

今津大観楼跡　今津「大観楼」は江戸時代の宝暦 5(1755)年飯田桂山が開いた塾。飯田桂山は酒造家でしたが、儒学を学び、そして私財を投じて今津の子弟教育の為に今津港近くに「大観楼」を建て、そして高名な学者を招き、今津の学問的土壌を支え、文化の発展に大きな寄与をしたと云われる。当時は風光明媚な今津海岸に建てられ「大観楼」と名付けられ、摂津、和泉、紀伊、阿波、淡路などが遠望できたという。

今津六角堂　明治 15(1882)年今津小学校の校舎として建築され、洋式の小学校建築として長野県松本市の「開智小学校」についで古く明治時代の貴重な建築。

西宮の浜方　西宮の街道筋（中国街道）の町を「町方」、南を「浜方」と呼んでいた。ここには旧辰馬邸、白鹿酒造博物館（酒造り道具）は県の指定文化財。

白鹿酒ミュージアム　白鹿酒造の旧酒蔵を残した酒造についての博物館(有料)。桜博士「笹部新太郎氏」の収集した美術品等の展示もされている。

酒蔵通り　同ミュージアムから北の一帯は西宮の酒蔵が集中している。

三河川合流　ニテコ池から流れる六湛寺川と甲山からの東川、百間樋などからの津門川の3河川が合流するがいずれも河床の高さが違うため合流部は洪水の危険にさらされていた。これの合流工事は難工事であった。津門川にはアユの遡上を助けるため魚道が設けられている。

西宮砲台　幕末の頃幕府は国防に不安を感じ、都警備の要大阪湾に砲台を築いた。慶応 2（1866）年に完成したが、一度も使われなかった。国の指定史跡。

御前浜(香枦園浜)　御前浜（おまえはま）は古くからの名前で平安時代から使われていたという。当時の海岸線はいまよりずっと北で広田神社の浜の南宮（西宮神社）の前にあって「御前浜」と呼ばれたという。明治 40（1907）に阪神電鉄が沿線開発の一環として「香枦園海水浴場」を開設して、これ以降御前浜は香枦園浜と呼ばれることが多くなった。公式には「御前浜」である。

夙川河口鳥獣保護区　御前浜の夙川以西の海岸は兵庫県の鳥獣保護区に指定。

夙川堤　夙川河口より上流苦楽園口付近までは桜の名所である。